京都芸術センター通信
KYOTO ART CENTER 京都芸術センター
DECEMBER 2019 12
VOL.235
発行：京都芸術センター　2019年11月20日

Photo by Christian Herrmann

Co-program カテゴリー A 採択企画

筒井潤／dracom『釈迦ヶ池ーDer Buddha-Teich』

12月6日（金）ー8日（日）

dracomと京都芸術センター、ドイツ・デュッセルドルフの劇場FFTとの共同制作である『釈迦ヶ池ーDer Buddha-Teich』は、9月にFFTで初演が行われました。日本語とドイツ語が入り交じる本作では、言葉が通じないことがきっかけで起きた事件や、日本とドイツでの謝罪に対する姿勢の違いが、2人の俳優の会話を通じて描かれます。京都公演に向けて演出家・劇作家の筒井潤さんにお話を伺いました。

――明治13（1880）年に大阪で起きた「釈迦ヶ池遊猟事件」から着想を得たということですが、具体的にどのようなところに興味を持って作品化したのでしょうか？

筒井：今回の創作のためにデュッセルドルフでリサーチをしているとき、改めてドイツ人の森好きを体感しました。ということで、日本に戻って家の近所にある森に行ってみました。ドイツの森と比べるとかなりこじんまりとはしていますが、森の気分は味わえます。池もあります。ウロウロしていると1枚のパネルが立っていました。そこに「明治13（1880）年には当地を訪れたドイツ皇孫が禁猟区で鴨を撃ち、地元の人々とトラブルになり、外交問題となりました。」と書かれていて、これは何だと調べたのがきっかけです。嘘のような本当の話です。いろいろとわかっていくうちに、森は誰のものなのか、そもそも誰かのものなのか、という興味が湧いてきました。これが今作の創作の原点となっています。今春にはdracomが運営している小スペースOPA_Lab（オパラボ）で、ワークインプログレスとなる『ただ知っているだけのグリム童話』というパフォーマンスを実施しました。そこで試みたことやお客さまからいただいたご意見も、今回の上演に大きな影響を与えています。

――作品中、ドイツ人と日本人の「謝罪」に対する考え方の違いが描かれています。観客の受け止め方も国によって異なるかと思いますが、9月のデュッセルドルフ公演ではどのような反応がありましたか？

筒井：とても好意的でした。初日翌日に、地元紙にレビューが大きく載って心から嬉しかったです。日本人の私が戯曲を創作したので、こちらがユーモアのつもりで書いたものがそう伝わらないのではないか、伝わったとしてもあまりウケないのではないか、と心配していたのですが、杞憂に過ぎませんでした。ドイツのお客さんはたいへん楽しんでくださっていました。特に、なかなか謝罪しないドイツの習慣について語られる場面では、声を出して笑っていたのが印象的でした。

終演後には、ロビーでワインを飲みながら観客と創作者の分け隔てなく一緒に意見を交わしました。これは特別なことではなく、普通だそうです。デュッセルドルフはヨーロッパで3番目に日本人が多い都市なので、日本人のお客さんもたくさん観に来てくださいました。皆さんも謝罪の習慣の違いを実感したり、うまく意思の疎通ができなかったりした経験があり、たくさんの感想やエピソードを聞かせてくださいました。このように、作品が交流のきっかけとなったのは本当に嬉しかったです。

――デュッセルドルフ公演を経た今、京都公演に向けてどのような準備を進めていきますか。

筒井：日本とドイツでは観客の反応がずいぶん異なると思われます。演出としては、反応の違いをどのように想定するかがとても重要になります。日々起こる世界中の多くの出来事と、それに対する様々な意見が飛び交う状況を注視しつつ、それらに応じる上演となっているか逐一確認していきます。

一方、デュッセルドルフ公演では鎌田菜都実とナジャ・デュスターベルクのふたりが、極めて難易度の高い演出に加えシンプルな意思疎通さえ困難な状況を乗り越え、素晴らしいパフォーマンスを披露しました。京都公演でも、ふたりの和やかな雰囲気やユーモアは引き継いで楽しい上演にしたいです。そのためにも（？）、メンバーのみんなで釈迦ヶ池には行くでしょう。鴨もいると良いのですが。

――最後に、公演に向けて意気込みをお願いします。

筒井：ドイツでの公演は終えているとはいえ、やはり日本で上演して初めて全貌が見える作品ですので、私も京都公演を楽しみにしています。本作はたくさんの要素が含まれていますが、そのどれにもある種のバカバカしさがあります。それらが複雑に絡み合うことで、何かが見えてきたり見えなくなったりします。その感覚を楽しんだり楽しめなかったりしてもらえたらと思います。是非観に来てほしいです。

Profile

筒井潤（つつい・じゅん）
演出家、劇作家。公演芸術集団dracomリーダー。2007年京都芸術センター舞台芸術賞受賞。2019年11月代表作『ソコナイ図』が、東京芸術祭ワールドコンペティション2019において、日本からの作品として上演された。

初演時の映像を観ました。ドイツ語のセリフがわからないのに楽しめる、むしろ言葉がわからないからこそ楽しめる作品かもしれないと思いました。（字幕はあるのでご安心ください！）
奥村麻衣子（アートコーディネーター）

※公演情報はP2をご覧ください

EVENT CALENDAR 2019.12

各種イベント申込方法（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申込ください。チケット窓口でも受け付けます。
※友印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です（制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外）
その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください。
※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示
※窓印の公演は、窓口にてチケット取扱

略称
日……日時　場……会場　席……席主　出……出演、出展
演……演目、曲目　料……料金　定……定員　主……主催
共……共催　問……問合せ　対……対象　持……持物

アイコン
美術　伝統　茶会　音楽　ダンス　演劇
トークイベント　ライブラリー　明倫ワークショップ（無料・初心者大歓迎！）
KACセレクション（共催事業）

11/29 fri. – 12/1 sun.

KAC Performing Arts Program 2019 / Contemporary Dance
相模友士郎『エイリアンズ』友
日11月29日（金）19:00、30日（土）15:00／19:00、12月1日（日）11:00／15:00 場フリースペース 料一般前売2,500円／当日3,000円、高校生以下1,500円（前売・当日共） 定各20名 ※特殊な形状の客席によるスタンディングでの鑑賞。上演約1時間 ●演出：相模友士郎 出佐藤健大郎、白井剛

11/30 sat.

ロスホコス「Let's Groove 楽しく踊ろう！」
音楽にのって高揚感・うねりを感じてみましょう。ダンス経験のない方でも気軽にご参加ください。
日11月30日（土）19:00－20:30 場制作室6 料無料 定10名 持タオル、飲み物 ※動きやすい服装でお越しください

12/1 sun.

したため「擬娩（ぎべん）ってなに？」
演出家の和田ながらが新作公演のコンセプトをお話ししたり、クリエイションで試みた方法を皆で体験します。
日12月1日（日）11:00－12:30 場制作室9 料無料 定10名

12/2 mon.

トリコ・A「『ここからは遠い国』稽古見学」
創作の現場では、演出家を中心に様々な人の意向や思いが積み重なって作品が創られています。その創造的な時間を体験してみてください。
日12月2日（月）14:00－15:30 場制作室12 料無料 定10名

12/6 fri. – 8 sun.

筒井潤／dracom
『釈迦ヶ池－Der Buddha-Teich』友窓
Co-programカテゴリーA採択企画。ドイツの劇場との国際共同制作による演劇公演。日・独字幕あり。
日12月6日（金）19:00、12月7日（土）14:00 ※アフタートークあり、8日（日）14:00 場講堂 ●演出：筒井潤 出鎌田菜都実、ナジャ・デュスターベルク 料一般前売2,500円／当日3,000円、U25 2,000円（前売のみ） 主dracom、京都芸術センター、FFT Düsseldorf ※P1もご覧ください

12/7 sat. – 23 mon.

第5回藝文京展～暮らしのみちづれ
たたむ・しまう等のモーションも含め、コンパクトに暮らしの空間に収まりながら、感覚や価値観を軽やかに拡張させる、工芸作品展。
日12月7日（土）－23日（月）10:00－20:00 ※最終日は18:00まで 場ギャラリー北・南 出公募入選作家 料無料 主京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会

12/13 fri.

文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門
第5回「日常使いの現代美術」
日12月13日（金）19:00－21:00 場ミーティングルーム2 ●講師：滝沢達史（美術家） 料無料（要事前申込） 定40名 主問東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS） TEL：075-525-7525 E-mail：info@haps-kyoto.com 共催：京都芸術センター

PICK UP

12/6 fri. – 8 sun. / 13 fri. – 15 sun. / 20 fri. – 22 sun.

宙宙「水になる～水は巡り、旅をする～」
Co-programカテゴリーC採択企画。長い年月を経て水が削り表出してきた大地の痕跡を等高線から読み解き、「水系図」を描くことで、地図には描かれていない豊かな水の流れを浮き上がらせようとする企画です。そして、そこから水の流れ、循環などの表現方法を、訪れる人と一緒に模索すると共に、多くの人と作品を創り上げることについて考えていきます。
オープンリサーチの期間中はいつでも自由に制作に参加できます。また、期間中に3回のワークショップを実施します。水系図を描いた後、水の流れの表現をグループで模索します。

オープンリサーチ
日12月6日（金）－22日（日）のうち金・土・日13:00－17:00 場制作室1 料無料 ※入退場自由

ワークショップ
日12月6日（金）、14日（土）、22日（日）14:00－16:00 場制作室1 料無料 定各回5名 対小学3年生以上 ※要事前申込。1日のみの参加可

主宙宙、京都芸術センター

水系図

12/14 sat.

ヨーロッパ企画イエティ
「極力台詞に頼らないお芝居のワークショップ」
悲しい気持ちを表現する時に「悲しい…」と言うだけでは勿体ない！感情表現の選択肢を共に探りましょう。未経験者、初心者対象。
日12月14日（土）13:30－16:30 場制作室5 料無料 定15名 持お持ちの方は上履き ●ワークショップリーダー：大歳倫弘

12/14 sat.

明倫レコード倶楽部［其ノ70］「食」の音楽友窓
作家のいしいしんじ氏をお招きし、「食」をテーマにご自身がもつ貴重なコレクションの中から、とっておきの曲目をお届けします。
日12月14日（土）15:00－17:00 場講堂 料500円（1ドリンク付） ●講師：いしいしんじ（作家）

12/15 sun.

kurage「言（こと）の葉（は）を歩く」
色々な言葉を「歩いて」みましょう。詩や言葉を投げ掛けられた時、体はどのように変容していくのでしょうか。
日12月15日（日）15:00－17:30 場制作室6 料無料 定8名 ※動きやすい服装でお越しください

12/22 sun.

ロスホコス「型に捉われないダンス」
ダンス経験のない方でも気軽に参加できます。ダンスの楽しさを体験してみましょう。
日12月22日（日）13:30－15:30 場制作室10 料無料 定15名 持タオル、飲み物 ※動きやすい服装でお越しください

12/25 wed. – 2020 1/4 sat.　休館日

2020 1/9 thu. – 11 sat.

庄波希＋新宅加奈子『raw』
Co-programカテゴリーD採択企画。生きるために踊る身体と、死ぬために存在する身体が織りなすダンス・パフォーマンス。
日2020年1月9日（木）－11日（土）19:30、12日（日）16:30 場講堂 ●振付・演出：庄波希 ●空間美術：新宅加奈子 料一般前売2,500円、U25前売2,000円 ※当日各500円増 ほか ●チケット取扱：チケットぴあ（Pコード：497-746）ほか 主問HI×TO E-mail：hixto.design@gmail.com 共京都芸術センター

図書室休室日：12月25日（水）－2020年1月4日（土）

制作支援事業（制作室使用者による公演・展覧会）

したため#7『擬娩』
妻の出産前後にその夫が妊娠にまつわる行為を模倣する習俗をモチーフにした演劇作品。

京都公演
日12月6日（金）19:30、7日（土）14:00／19:00、8日（日）14:00／19:00、9日（月）14:00 場THEATRE E9 KYOTO（南区）
沖縄公演
日12月13日（金）20:00、14日（土）19:00、15日（日）14:00 場アトリエ銘苅ベース（沖縄県那覇市）

料一般前売2,700円／当日3,200円、U25 前売2,000円／当日2,500円、高校生以下 前売1,000円／当日1,500円 問したため TEL：050-5318-7717（ワタナベ） E-mail：info.shitatame@gmail.com WEB：http://shitatame.blogspot.com/

木ノ下歌舞伎 舞踊公演『娘道成寺』
きたまりが60分1人で踊りきる『娘道成寺』。今回は長唄・囃子方による生演奏での特別上演。
日12月7日（土）、8日（日）15:00 場京都芸術劇場 春秋座 特設客席（京都造形芸術大学内）（左京区） 料一般4,000円、学生・U25 2,500円（前売・当日共） 問京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL：075-791-9437 WEB：http://k-pac.org

セレノグラフィカ プレゼンツ『写真を踊る2019』
女性ダンサーの身体の動きと展示写真の双方からインスピレーションを受ける公演。
日12月13日（金）18:00 場ギャラリーマロニエ（中京区） 出内田結花 料無料 問セレノグラフィカ TEL：090-8467-6828 E-mail：info@selenographica.net WEB：http://selenographica.net/

トイネスト・パーク 6th Parade『Arthur of Wizard』
ドラゴンと魔法使いの葛藤の物語。異世界を劇場に表出させます。
日12月13日（金）18:30、14日（土）13:30／18:30、15日（日）13:30／18:30 場人間座スタジオ（左京区） 料一般前売2,800円／当日3,000円、学生前売1,500円（前売のみ） 問トイネスト・パーク TEL：080-2432-5415（イワキ） E-mail：toynest.park@gmail.com WEB：https://toynestpark.wixsite.com/website

現代演劇レトロスペクティヴ
トリコ・A演劇公演2019『ここからは遠い国』
オウム真理教信徒の心理に目を向け、20世紀末の日本に漂う不安感を描く。
日12月20日（金）15:00／19:00、21日（土）13:00／17:00、22日（日）13:00 場AI・HALL（兵庫県伊丹市） 料一般前売3,000円／当日3,500円、U25 1,000円（前売・当日共）、ペア5,000円（前売のみ）、初回割引2,500円（12月20日15:00対象、前売のみ） 問AI・HALL 伊丹市立演劇ホール TEL：072-782-2000（火曜休館） E-mail：info@aihall.com WEB：http://www.aihall.com

TICKET［チケット］

第256回 市民狂言会
日12月6日（金）開場18:30 開演19:00 場京都観世会館（左京区） 演宝の槌、御茶の水、附子、蟹山伏 出茂山七五三、あきら、千三郎 ほか 料前売2,500円／当日3,000円 ●チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、チケットぴあ（Pコード：496-726） ※団体券2,200円（20名以上）は京都芸術センターにて取扱 主京都市

ロームシアター京都×京都芸術センター
U35創造支援プログラム“KIPPU”

● **お寿司 ポロレスコ『波稜心中（ハローしんじゅう）』**
『曽根崎心中』を下敷きに、現代における心中を探る、衣装作家による演劇公演。
日12月11日（水）19:30※、12日（木）14:00／19:30※、13日（金）16:00 ※アフタートークあり 場ロームシアター京都 ノースホール 料一般3,000円、U25 2,500円、高校生以下1,000円 ※当日各500円増 主問お寿司 E-mail：osushie.minamino@gmail.com 共京都芸術センター、ロームシアター京都、京都市

● **オル太『超衆芸術 スタンドプレー』**
「自らが演じること」と「演じることを観ること」の関係が都市と劇場のなかで立ち上がり、人間の共存について問います。
日2020年2月8日（土）15:00、9日（日）18:30、10日（月）19:00、11日（火・祝）14:00 場ロームシアター京都 ノースホール 料一般2,999円／U25 2,499円 ※当日各500円増 高校生以下999円（前売・当日共） 主問オル太 E-mail：mail@olta.jp 共京都芸術センター、ロームシアター京都、京都市

ソノノチ『たちまちの流（ながれ）』
Co-programカテゴリーD採択企画。風景の中を旅する演劇作品。
日2020年1月16日（木）19:30、17日（金）14:00／19:30、18日（土）13:00／18:30、19日（日）14:00 場フリースペース 料一般前売2,800円、学生前売2,300円、高校生以下1,000円 ほか ●チケット取扱：京都芸術センター、ソノノチ WEB：http://sononochi.com/tachimachinonagare/ ほか

OPEN CALL［募集］

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2020：エクスチェンジ／ARTSPACE 参加アーティスト・キュレーター募集
2020年10月－11月にARTSPACE（シドニー、オーストラリア）でリサーチ、制作に取り組むアーティスト・キューレーターを募集します。オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツとの連携プログラム。
●支援内容：制作費200,000円（内税）、生活支援費150,000円（内税）、往復航空券相当の旅費（関西国際空港－シドニー間）、宿泊場所、スタジオの提供現地、コーディネーターのサポート ●締切：12月20日（金）

「We Age」公募展プロジェクト
概ね65歳以上の方から、ロック、映像、ファッション、パフォーマンス（ダンス、コント等何でもあり）の作品のプランを募集し、京都芸術センターと一緒に2020年4月に実現します。
●締切：2020年1月13日（月・祝） ※募集詳細はP4をご覧ください

PICK UP

前田耕平「Love Noise Kyoto（仮）」
プロジェクト参加説明会

シドニーでの制作風景　撮影：呉屋直

前田は、2019年8月－10月に京都芸術センターのアーティスト・イン・レジデンスプログラムでシドニーに滞在し「Love Noise（仮）」プロジェクトを進めてきました。そして2020年3月に京都バージョンを京都芸術センターで展示します。愛について考えながら、映像作品を一緒につくりませんか？まずは、プロジェクトの概要と前田のこれまでの作品を紹介する説明会を開催します。プロジェクトに興味のある方、参加希望の方はお気軽にお越しください。
日12月1日（日）・15日（日）13:30－14:30 ※1日のみの参加可 場京都芸術センター 料無料 対プロジェクトに興味がある方 ※要事前申込

Profile
1991年和歌山県生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科構想設計専攻修了。人や自然、物事との関係や距離に興味を向け、自身の体験を手がかりに、映像やパフォーマンスなど様々なアプローチによる探求の旅を続けている。近年の活動に、南方熊楠の哲学思想を追った「まんだらぼ」プロジェクトや、タイにナマズを探しにいく「パンガシアノドン ギガス」などがある。WEB：https://koheimaeda.com/

20周年記念事業テーマ

「We Age」

Photo by Kazuo Yamashita

京都芸術センターは、2020年4月に開設20周年を迎えます。20周年を迎えるにあたり、「We Age」をテーマにさまざまな事業を展開します。

このテーマ「We Age」は、京都芸術センター事業を担当するアートコーディネーターとプログラムディレクターで話し合って考えました。直訳すれば「私たちは歳をとる」という意味ですが、ポジティブにもネガティブにもとらえられる、そこにかかわる人たちの在り様によってどのようにも解釈できるニュートラルな言葉として選んだものです。

そこに至る大きなきっかけになったのが、今年6月に開催した「えんじょいデス マイクの生前葬パフォーマンス」でした。マイクさんは、京都芸術センターの開設当初から活躍するボランティアスタッフであり、Kyoto Dance Exchangeやロスホコスというダンスカンパニーで活躍するダンサーでもあります。持ち前の好奇心で京都の様々な芸術の現場にかかわり、ギャラリーや劇場にもよく足を運ばれているのでご存じの方も多いのではないでしょうか。そのマイクさんが、2019年2月にALS(筋萎縮性側索硬化症)という難病の宣告を受け、死と向き合い落ち込んでいく中で、もっと前向きに一緒にできることはないかと、彼の仲間たちが企画したのがこのパフォーマンスでした。この公演には、死という通常ネガティブにとらえられる事象も、そこにかかわる人の力で楽しむことができ、別のポジティブな力に変換することができる、というハッとさせられるような発見と圧倒的な感動がありました。京都芸術センターらしい、京都芸術センターにしかできないことは何か、を常に考えている私たちにとって、ひとつの道しるべになった出来事と言えるかもしれません。

そこから、若手芸術家を支援することをミッションとする京都芸術センターにとって、今できることは何かを考え、たどり着いたのが「We Age」です。〈若手支援の在り方を考える上で多様なものを受入れながら混乱を生み出したり、考えるきっかけにしたい〉〈創造と実験に向き合ってきた20年という時間の重みとささやかさを見直したい〉〈歳をとることに夢を見たい〉〈あたりまえのことを地道にやりたい〉〈世代間の交流を通して若手芸術家と社会との接点を回復したい〉……。

Photo by Kazuo Yamashita

2020年3月から始まるプレ事業では京都芸術センターのもっとも大きな理解者であり支援者でもあるボランティアスタッフや地域のみなさんとの協働事業等を行い、4月の春プログラムでは新進の演出家を招いての20周年記念式典、これまでに挑戦したことのない65歳以上を対象とした公募展プロジェクトで世代間の交流を図り、8月の夏プログラムでは多彩なアーティストのみなさんにご協力いただき、こどもを含む幅広い世代の方々に楽しんでいただける特別企画を準備しています。芸術を通して、一緒に考え楽しむことのできる機会をつくりだしたいと思います。

山本麻友美(チーフプログラムディレクター)

「We Age(ウィー・エイジ)」公募展プロジェクト

概ね65歳以上の方から、ロック、映像、ファッション、パフォーマンス(ダンス、コント等)の作品のプランを募集し、京都芸術センターと一緒に2020年4月に実現します。選考は、現在活躍中の若手を含む芸術家や専門家によって構成される選考委員会で行います。

募集ジャンル：ロック(カバー曲も可)、映像、ファッション、パフォーマンス(ダンス、コント等何でもあり)

応募資格：プロ・アマ問わず。ただし、応募者あるいはメンバーの大半が65歳以上。

作品展示：2020年4月11日(土)－5月17日(日)
※ロック、パフォーマンスは4月11日(土)・12日(日)

会場：ギャラリー北・南(展示作品)
フリースペース(上演作品)

応募方法：所定の応募用紙と作品資料を、郵送もしくはE-mailにてお送りください。

締切：2020年1月13日(月・祝)

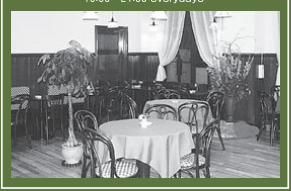
各イベントの詳細・最新情報はウェブサイトでご確認いただけます。

公式ウェブサイト | http://www.kac.or.jp

kyotoartcenter

@Kyoto_artcenter

Since 1971
MAEDA'S COFFEE
KYOTO ART CENTER 1F
MUROMACHI, TAKOYAKUSHI
NAKAGYOKU, KYOTO
TEL.075-221-2224
10:00～21:30 everydays



京都芸術センター叢書 二
「伝統芸能ことはじめ」
小林昌廣 著　定価3,456円(税込)
京都芸術センター窓口、もしくは
下記ウェブサイトよりご注文いただけます。
http://www.kac.or.jp/shop/

京都芸術センター KYOTO ART CENTER

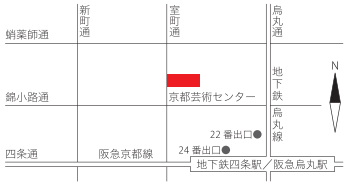
交通案内

- 市営地下鉄烏丸線「四条」駅／阪急京都線「烏丸」駅 22番出口・24番出口より徒歩5分。
- 市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間

●ギャラリー・図書室・情報コーナー・チケット窓口	10:00－20:00
●カフェ	10:00－21:30
●制作室、事務室	10:00－22:00

休館日　12月28日から1月4日
※設備点検のため臨時休館することがあります



〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000　FAX：075-213-1004
E-mail：info@kac.or.jp

指定管理者：公益財団法人京都市芸術文化協会